

本事業の背景・目的

CCUSの普及に向けて・・・

- ✓ 日本ではCCUSの取り組みが推進されている
- ✓ 経産省より公表された「カーボンリサイクルロードマップ」では、CCUSに向け、以下2つが必要と記載されている

①産業間連携の検討

- ・将来的な社会デザインを想定した、多様な産業間連携に向けた段階的な検討を進め、見える化が必要

②カーボンマネジメントの役割の検討

- ・また、地域全体でのCO₂排出削減や、回収されたCO₂の供給者と利用者のマッチング等を担う、「CO₂マネジメント事業者」の役割・課題、担い手等の検討が必要



CCUSとは・・・

✓ 「Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage」の略で「回収したCO₂を有効利用・貯留することを意味する
具体的には以下要素にて構成される

1. CO₂の回収 (Capture)

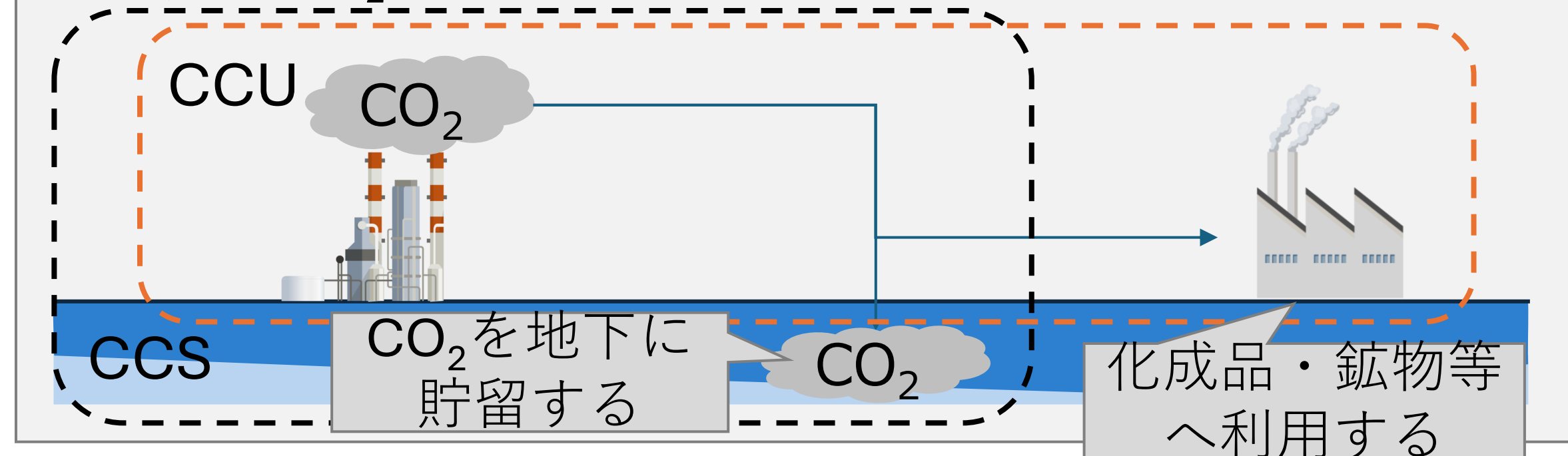
- ・発電所、製鉄所、化学工場などから排出されるCO₂を分離・回収する技術
- ・吸収液を使った化学吸収法や、膜分離法、冷却分離法などが使われる

2. CO₂の利用 (Utilization)

- ・回収したCO₂を資源として活用する技術
- ・例えば、炭酸飲料への利用、コンクリート製造への応用、化学品や燃料 (e-fuel、メタノールなど) への変換が挙げられる

3. CO₂の貯留 (Storage)

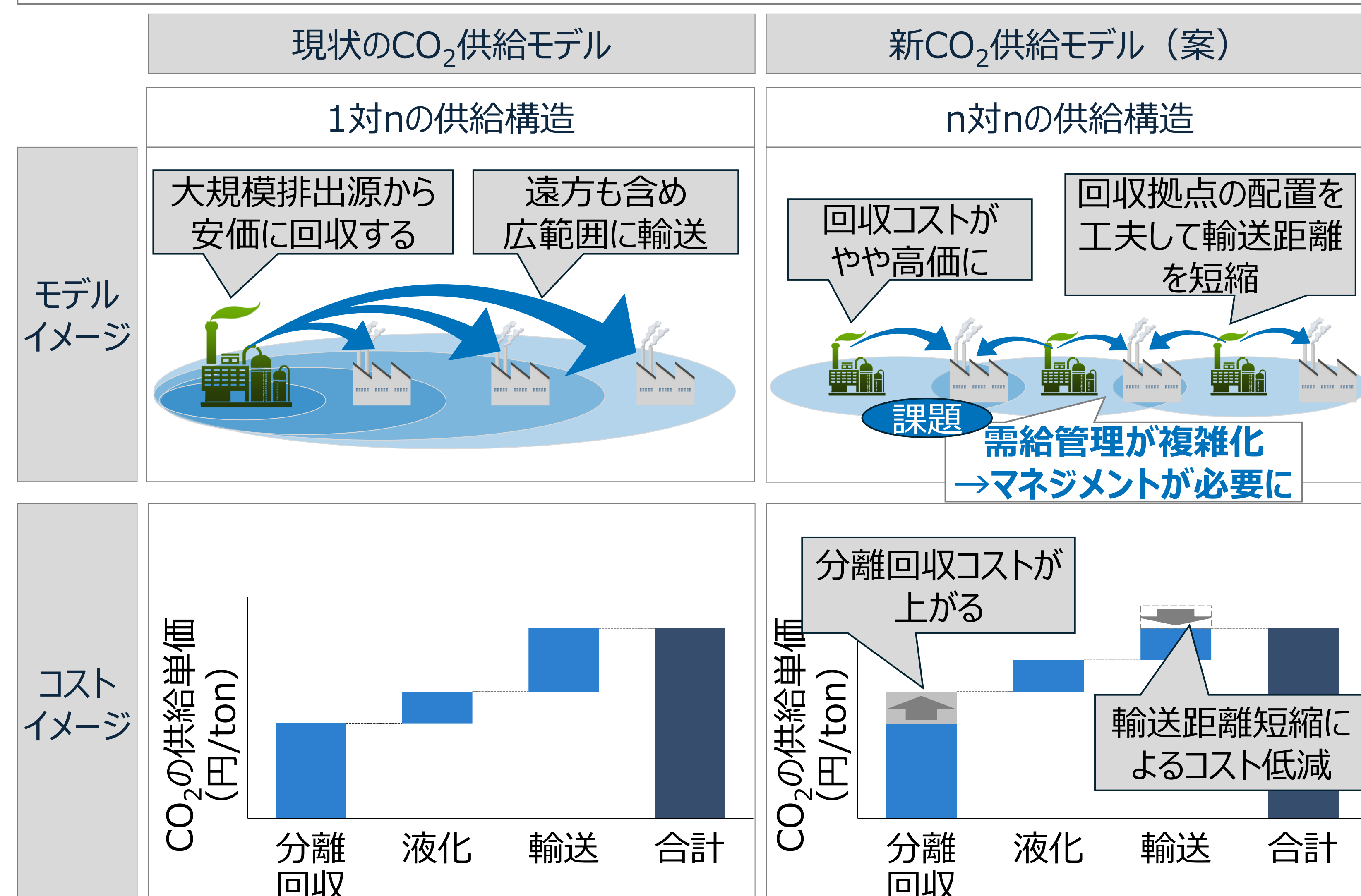
- ・地下深くの地層 (枯渇油田・ガス田、深部帯水層など) にCO₂を圧入し、長期的に閉じ込める。



現在の検討状況

中小規模分散型にて実現可能性のあるスキーム案は・・・

- ✓ 「中小規模分散型」の課題であるCO₂回収コスト高を、回収拠点の配置の工夫により輸送距離を短縮して、輸送コストを削減することで解決できる可能性がある

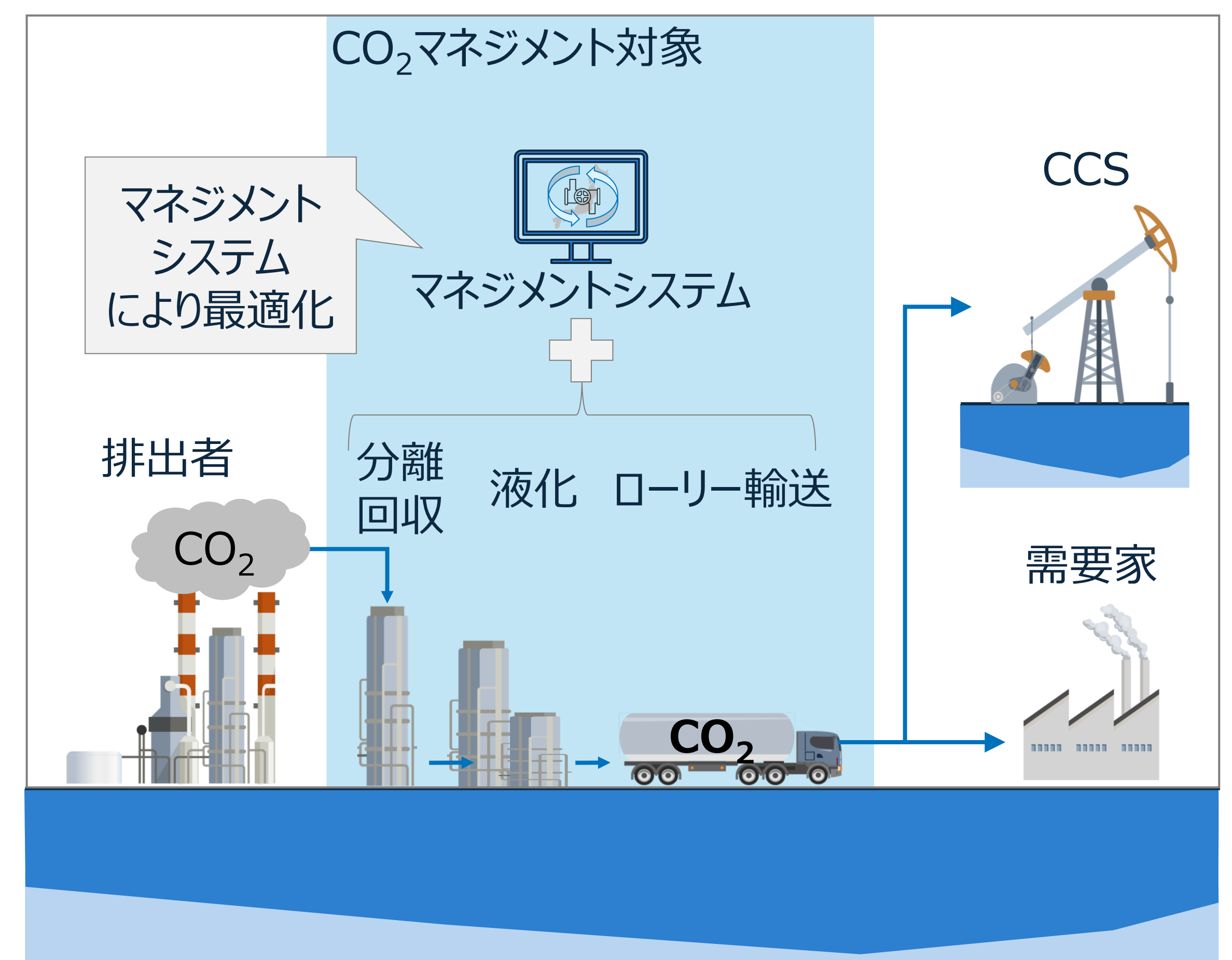


今後の取り組み

カーボンマネジメントの役割は・・・

以下の項目について今年度検討をする

- ✓ 誰が役割を担うか
- ✓ 何の機能を持つか
- ✓ どの程度の効果が見込めるか など



本事業終了後の検討

実用化・事業化の見通し・・・

- ✓ カーボンプライシング制度の普及と共に、CO₂回収のニーズが高まっていくと予想される
- ✓ カーボンプライシングにまつわる制度の実装・普及の動向を見ながら、「カーボンマネジメント」の段階的な検証実施を検討していく予定である

